

「ひとつ、よい仕組みを」 バイオ炭素循環 LAB通信

余剰エネルギーを用いてバイオ炭素資源製造にチャレンジ

バイオ炭やバイオコークスといったバイオ炭素資源は、対象物を無酸素状態で加熱し、熱分解する工程によって製造されます。この過程で、炭素以外の成分が除去され、炭素の濃度が高まることで、バイオ炭やバイオコークスが生成されます。

そのため、事業所内に余剰エネルギーがある場合には、この製造プロセスとの親和性が高く、バイオ炭素資源の生産において有利といえます。

余剰エネルギー活用に対する期待感

一部の工場では、余剰エネルギーの活用方法に課題を持っているケースがあります。

余剰熱（余剰蒸気）、余剰電力（FIT等で売電ができない電力）が具体的なものとして挙げられます。

これらを用いて、バイオ炭素資源の製造を検討される事業者様もいらっしゃいます。



炭化装置の簡易コストシミュレーション

バイオ炭素資源の製造は、炭素資源の純度を高めることで新たな製品価値を見出す設備であるといえます。

製品要件に合わせて、どの程度のエネルギーを加えることが妥当解としてあるのかという部分について、当社では簡易的なコストシミュレーションシートを作成しております。

皆様のエネルギー条件・パラメータを入力することでどのような投資効果が期待できるかが把握できます。



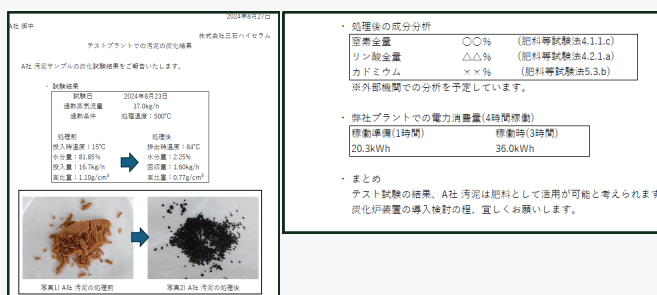
当社の炭化装置テストプラントを用いて、 バイオ炭素資源の製造テストが可能です。

バイオ炭素資源の生産にあたり、多くの手法が世の中には存在しています。当社では、過熱水蒸気式という手法を用いており、既に、導入実績・稼働実績を持ったものがあります。

同様のテストプラントを当社では保有しており、皆様からの炭化対象物のデモテストが可能です。

《炭化デモテストの流れ》

- ①初期ヒアリング炭化物や発生状況ヒアリング
- ②炭化実証テストのお見積り・ご契約
- ③バイオ炭製造、実証テスト実施
- ④成分分析、結果レポート



バイオ炭製造事例のご紹介

当社におけるバイオ炭製造の実績をご紹介します。



もみ殻の炭化

炭素含有量： 約27%
炭化時間： 約30分
効果： 保管性の向上
炭素の固定化
用途： バイオ炭・農地施用



木質ペレットの炭化

炭素含有量： 約20%
炭化時間： 約60分
効果： 発熱量の増加
保管性の向上
用途： 燃料代替

当社ではバイオ炭の製造テストも可能です。
当社テストプラントを活用して、炭化テストを実施
できます。お気軽にご相談ください。

バイオ炭素循環LAB Memberより



作る側と使う側。
双方のニーズを
結びつける役割を
私達が担いたい

営業部 福田

弊社には、バイオ炭素資源の製造をご希望される声をはじめ、同資源を用いた製品開発や加炭材としての利用に関するご相談など、多岐にわたるニーズが日々寄せられております。

これらの多様なご要望に接する中で、バイオ炭素資源の製造側と利用側の双方のニーズが合致し、持続可能なビジネスの流れが形成されなければ、真の意味での流通・普及は実現しないという課題が明らかになりました。

弊社は、こうした各事業者様の想いを繋ぐ「橋渡し役」を担うことが、バイオ炭素資源の普及促進における極めて重要な役割であると認識しております。今後、積極的な情報発信などを通じて、多くの方々と共にバイオ炭素資源の利用可能性を追求してまいりたいと考えております。



株式会社三石ハイセラム

0869-62-0354

岡山県備前市三石2577（営業部） <https://mitsuishi-hc.jp/>

バイオ炭に関するご相談（作りたい・使いたい）はお気軽にご相談ください

お問合せ
こちらのQRより

